



TITLE:

天界新知識

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天界新知識. 天界 1937, 17(198): 442-444

ISSUE DATE:

1937-09-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167546>

RIGHT:

な太陽の部分的な研究には非常に適當してゐるわけです。唯現在の所太陽全面の記録にはなほスペクトロヘリオグラフに依らなければなりません。

將來も亦この二つの機械は相助けて、一方で太陽面を眼視的に „Line-Shifter“ を活用して追求しながら、スペクトロヘリオグラフにその第2スリットを置く可き位置や、撮影す可き場所、時刻等を示しつつ完全な記録を残さしめるといふ様な工合に使用されるのが本當だらうと思はれます。

まだこの項には書きたい事もありますが、あまりに長くなりましたからこゝらでペンを擱く事に致します。

だらだらと長く書いた割に甚だ不十分な要領の悪い記事となつて甚だ恐縮に思ひますが——何卒悪しからず——



## 天 界 新 知 識

新知識各項に附けた番號は便宜上のもので分類に關係はない。各人の分類整理に應用されたい。

612

### 星 霧 中 の 超 新 星

キルソン山天文臺の Zwicky 氏は星霧附近の新星搜索のため、46種 Schmidt 望遠鏡を以て多數の星霧寫眞を撮影してゐるが、昨年9月以來、本年5月までに、既に300枚の寫眞を得た。其の結果本年2月16日に最初の收穫として NGC 4157番の星霧中に超新星を發見し、其後續々として超新星を發見してゐる事は花山急報で累報の通りである。之の最初の發見を得たる NGC 4157番の星霧とは光度12等級の Sc 型渦巻星霧で、新星はそ

日	光 度
1936年12月18日	17.5以下
12月21日	17.5以下
1927年 2月16日	16.2
3月 6日	16.7
3月 7日	16.5
4月11日	16.9
4月12日	17.2
5月10日	17.5以下
5月13日	19.3

の中心から北東へ  $1'$  離れた暗黒部に現はれた。光度觀測は次の通りで、光度は寫眞光度である。

之で見ると新星は本年1月に極大となつたものらしく、光度曲線は昨年 Baade 氏が NGC 4273番の星霧に發見したものによく似て、減光が甚だ急である。それから類推して極大光度は  $m_p=14.6$  と考へられる。すると之の超新星と星霧との光度の差は其の時は2.6等級となるが、更に之はさきに Baade 氏が超新星と星霧との光度差に關する研究から得た結果ともよく一致する事となる。[P. A. S. P. Aug. 1937]

## 613

## 火星スペクトル中の水蒸氣線

キルソン山天文臺の W. S. Adams 及び T. Dunham 兩氏は250糎大反射鏡のクイデ焦點に焦點距離3米の廻折格子を付け5~6時間の露出で、火星の分光寫眞を撮影して、水蒸氣の有無を検査した。撮影は本年2月22, 26日及び4月25日で、2月には火星は地球に對し毎秒19糎、4月には11糎の速度で接近してゐたので、火星面上にある水蒸氣の線は位置がずれて、地球大氣中のそれと直ちに區別出来る筈である。然るに寫眞乾板の細密な検査にも關はらず何等の線を認め得ず、火星面中央附近には水蒸氣は存在しないと思はれる。本年の對衝は低緯度で起つた爲め、極地方の觀測は出来なかつたが、今後の興味ある問題である。[P. A. S. P. Aug. 1937]

## 614

## 世界最大の反射望遠鏡一覽表

花山の日食觀測隊の歸來談によれば、目下世界最大級の反射鏡は下の通りである。

番號	口 徑	所 屬 天 文 臺	備 考
1	500糎("200吋")	圓米カリフオニヤ學院パロマ山天文臺	建造中
2	254糎("100吋")	カネギ學院キルソン山天文臺	1918年完成
3	248糎("97½吋")	米國ミシガン大學天文臺	建造中
4	208糎("82吋")	テキサス大學マクドナルド天文臺	建造中
5	188糎("74吋")	カナダ領トロント大學天文臺	1934年完成
6	188糎("74吋")	南アフリカ英國オクスフォード大學所屬 ラドクリフ天文臺	} 建造中
7	183糎("72吋")	カナダ領ギクトリヤ天文臺	
8	175糎("69吋")	米國オハヨ・エスレイ大學パーキンス天文臺	1932年完成
9	155糎("61吋")	ハワード大學オリヰヂ天文臺	1935年完成

## 615

## 超 巨 星 VV Cephei

セフェ座の VV 星は一種の不規則變星と思はれてゐたが、米國ハワード大學天文臺の研究によれば、此の星は週期約20年の變光を示し、全天第一の巨大な直徑を有する超巨星よりなる蝕變星なることが明らかとなつた。

其の要項は

變 光 週 期	20年5ヶ月
極 小 光 輝	1895年, 1916年, 1936年, (1957年)
光 輝 變 動 は	極大 6.6, 極小 7.4
蝕 の 繼 續 時 間	490日
皆既蝕の繼續時間	450日
質 量	{ M型伴星は 太陽の 44.5倍 B型伴星は 太陽の 35.4倍

此の M 型星は吾が太陽の直徑の約1100倍の直徑を有し、現今知られてゐる最大直徑

の恒星である。

## 616

## 人 事 消 息

**E. M. Lindsay 博士** 南アフリカのフルームフォントイン市にある米國ハイヴード大學天文臺出張所の同氏は、今回 W. F. A. Ellison 師の後をつぎ英國アイルランドのアルマ天文臺長に任命せられた。

**P. van de Kamp 博士** 米國バージニア大學天文臺員の同氏は今般 J. A. Miller 教授の後繼者として、スワースモア大學天文臺長となつた。

**Ambrose Swasey 氏** 米國クリーヴランド市に、Warner 氏と共同して Warner & Swasey 會社を創立し、ヤーキース天文臺の大赤道儀を始め多くの大望遠鏡を作つた同氏は去る6月15日に91歳を以つて逝去した。

**E. Hertzsprung 博士** オランダ國ライデン天文臺長の同氏は、今夏ブルース賞牌受領のため、米國カリフォニヤ大學に渡來し、其の後引き続きリク天文臺で二重星の寫眞觀測をやつてゐる。去る8月16日山本一清博士等はリク天文臺で同博士と會談したが、同氏は觀測後、キルソン山天文臺を訪ひ、其の後歸國する由。

## 617

## フランス天文學會創立50年祝典

去る6月16日パリ市に於いて、フランス天文學會 (La Société Astronomique de France) は同會創立50週年の祝典を舉行した。Lebrun 大統領、J. Perrin 理學研究所長、J. Zay 文部大臣等が此れに出席した。

## 618

## 去る6月8日の皆既日食觀測隊一覽表

あの日の日食を世界各地から各所へ出かけて觀測した研究團は下の如きものである。

番號	派遣學府	人 員	觀 測 點
1	日本京大花山天文臺	山本博士等5人	ペル！國ワンチャコ村
2	祕國サンマルコス大學	ガルシヤ博士等20人	” ワンチャコ村
3	米國ニウヨーク博物館	フィシヤ博士等4人	” ”
4	” ”	コルフ博士等3人	” コルキボクロ村
5	” ”	ステイヴンス少佐等4人	” 海上(飛行機)
6	” ”	バートン博士等5人	” セロデパスコ市
7	” キスコンシン大學	ステピンス博士	” カスマ町
8	” ハイヴード大學	ロマニヤ氏	” ”
9	” 海軍天文臺	ヘルエグ大佐等	南洋カントン島
	” ヴージニヤ大學	ミチエル博士	
	” キルソン山天文臺	ドノム博士	
10	” フランクリン學院	ストクリ博士	中央太平洋(汽船中)
	” プリンストン大學	ステワート博士	